

**東京ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業環境安全委員会  
第21回議事要旨(案)**

1. 開催日時 平成23年6月30日(木) 15:30~17:30
2. 開催場所 ホテルルートイン東京東陽町2階大宴の間
3. 出席者 岩崎委員、織委員、風祭委員、木下委員、佐古委員、鈴木委員、竹内委員、谷川委員、中杉委員、星野委員、細田委員、細野委員、村山委員

4. 議事(公開)

資料に基づき説明及び質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

(1) 東京PCB廃棄物処理施設の操業状況について

○混合管の入口温度は。

(J) 370~390℃です。

○凝縮液が存在すると孔食が出やすいのか。材質は。

(J) メーカー見解では、毎回の切断・溶接により、繰り返し熱によるクロム炭化物析出などで孔食が発生、応力腐蝕割れに至ったと考えられるとのこと。

材質は、インコネル625(ニッケル60%、クロム20%、モリブデン10%)

○敷地境界のダイオキシン類について

(J) 今後もフォローしていく。

○雨水のダイオキシン類成分にコプラナーPCBが多い。注意していく必要がある。

(J) 成分からみるとJESCO由来のものが多いと考えており、注意していく。

○ヒヤリハットの改善事例で、コンデンサが傾いて落下したのはスピードなどが原因か。

(J) ローラーコンベアに直角に置かず、斜めに置かれたため転倒しやすくなった。

(2) 労働災害発生と再発防止策について

○労災発生は慣れの問題か、安全教育の問題か。

○ヒヤリハットを行なっているのにトラブルが多発したのはなぜか。

(J) 9件連続して発生した労災は、対症療法的な対応も原因の一つと考えている。

○被災した方の経験年数などは。

(J) 4ヶ月、5年、1年から2年で、特異性を見つけることは出来ない。

○初期の安全教育の内容は。

(J) 知識教育やOJT教育

○入院した労災の発生原因の一つとして、上長などによるチェックのシステムが働いていないのでは。また、間違った方法が放置され、まかりと通っている。組織のあり方が問題では。

(J) ヒヤリハットの提出も無く把握できていなかったものもある。作業手順書との整合や安全面での補足資料を作成したい。

作業長などが班員(作業員)の作業を十分把握する必要があった。

○ヒヤリハットは件数が多い、少ないという問題ではない。生かされているかが重要である。

(J) さらにヒヤリハット活動を活発化させるとともに提案を活かしていく。

○PCBの危険性には注意が向いているが、処理活動、工具・重量物・重機扱いなどに注意が向いていないのでは

○グローブボックス作業に係る事故の対策としてインターフォンを設置したとあるが、両手を使わないで通話できるのか。

(J) 操作なしで通話できます。

### (3) 3. 1 1 大地震発生時の対応について

○休日や夜間に発生したときの対応はどうなるのか。

(J) 夜間は当直長がトップとなる。

○水熱が緊急停止した場合、どれくらいで温度、圧力は下がるのか。

(J) 自然のまま放置する。確認して報告します。(別紙にて報告済み。)

○漏れ被害の状況は。

(J) 処理液回収タンク室内に漏れの跡があったが、ふき取りで対応できた。

○夜間の体制、代行順位は決定されているか。

(J) 当直長が休みの時は、当直長代理が対応する。

○地震時の東京都、江東区への連絡はいつ行なったのか。

(J) 固定電話が一次的に回復し安全確認ができたので連絡した。

江東区は、環境安全委員会の会場で報告したと記憶している。

○普段の訓練はどのように生かされたか。

(J) 防災本部、現地対策本部、中央制御室のうち防災本部と中央制御室を中心に防災組織の各班が対応した。

○震災では、長周期の振動や、津波が問題となったが、何か検討したか。

(J) PCBタンクから流れることはないかなど、今後、検討していく。

### (4) 第2回内部技術評価について

○本社からみて東京事業所の評価順位は。

(J) 処理方式は違うので単純に比較できない。東京事業所は、操業開始当初はトラブルがあったが、その後は挽回し、成果も出てきている。

### (5) その他

○電力15%削減への対応は。

(J) 焼却施設と同じで制限緩和対象施設なので申請し5%削減に緩和された。処理量への影響は少ないと思う。